中日新聞　2013年(平成25年)6月13日(木曜日)

# 「唐人おどり」伝承 願い込め自費出版

## 鈴鹿の保存会顧問・和田さん

### 活動記録や論文集

### 豊富な写真 手元の資料詰め込む

鈴鹿市東玉垣町に残る民俗芸能「唐人おどり」を後世に伝えようと、おどりの保存会顧問を務める和田佐喜男さん(=)が、歴史や継承活動をまとめた著書「唐人おどり伝承の秘訣」を自費出版した。「子どもたちにずっと続けてほしい」との一心で書いた一冊だ。(鈴木智重)

自費出版した著書を手にする和田佐喜男さん=いずれも鈴鹿市役所で

朝鮮通信使の行列を模したとされる唐人おどりは、異国風の衣装やひょうきんな面をつけ、ラッパやドラなどをならしながら踊る伝統芸能。同様のおどりは、全国でもほかに津市と岡山県瀬戸内市に残るのみという。

東玉垣町での起源は分かっていないが、少なくとも江戸時代の一八一一(文化八)年には踊っていた記録が残る。現在は、五穀豊穣を願う四月初旬の春の祭礼のメーンとして、地元の中高生らが演じている。

だが、若手の担い手不足などを理由に一九六四(昭和三十九)年、獅子舞やみこしを含めた祭礼はいったん途絶えた。「祭りがないのは、何とも寂しい」と、和田さんを中心とした有志が六八年に保存会を発足し、住民に働き掛けて再開させた。

A4判百七十六ページの著書には、伝承のため駆け回った活動の記録やおどりを考察して過去に記した論文、地域の発展を祈る、誇りあるおどりがいつまでも残るようにと、手元にある資料をすべて詰め込んだ」と話す。

和田さんは保存会員らとともに鈴鹿市役所で、末松則子市長に著書七十五冊を贈った。末松市長は「これまでおどりについてまとめた著作はなくて貴重な資料。小中学校に配布して子どもたちの教育に生かすとともに、郷土史などの研究者が活用できるようにしたい」と話した。二千円。県内の書店で販売する計画もある。

衣装を身に着けておどりのポーズを取る保存会員たち

和田さんとは鈴鹿で「戦争を聞く会」以来20年の友人で大先輩。今回の出版をねぎらってお訪ねしたら「祭は一人でできず。今日あるは皆のお陰と頭さがりつ無心斉」とサインして下さいました。磯津の鯨船のこともすごく心配して下さり、その秘訣を思いっきり語って頂きました。

## 編集後記

▼教え子で俳優をがんばっているMくんの芝居を観に行きました。なかなかの味を出していました。帰りの電車、いいものを観た豊かさと時間、とても満たされた気持ちになりました。

▼トウモロコシがカラスの襲撃を受けました。コンドルのオドシとテープがしてあったのに。負けました。

▼この一ヶ月パネラーや講演を二つさせていただきました。難しいですね。笑ってくださったり、全員の顔がぐっと上がると嬉しいですね。感想にも励まされホッとしてるかな。

▼蓼科のイングリッシュガーデンに妻と一日バス旅行に参加しました。草と花のしっとりした庭でした。シニア女性のなんと多いこと。

▼自治会で通学路の交通改善に手製の4メートルの高さの看板を立てました。DJポリスのまねをして優しい言葉で書きました。半分は効果が出てきたかなあ。

《 連絡・情報提供先 090-4269-0965 hagi1922@tcp-ip.or.jp 磯津環境学校情報室 》